

報告書

テーマ：住み慣れた家で最期まで過ごす ～実現したご家族・医療者の話を聴く

申請者名：岩本貴

所属機関：NPO 法人楽患ねっと

助成対象年度：2014 年後期

提出年月日：2015 年 9 月 24 日

【概要】

2015年8月15日に東京都足立区の西新井文化ホールにて『住み慣れた家で最期まで過ごすための市民の集い』を実施した。参加者は170名(市民43名 医療介護関係者100名 スタッフ37名)。

【当日の流れ】

13:30 会場

13:50 開演 基調講演 町亞聖氏

14:35 パネルディスカッション

- ・看取り経験者 福井氏(妻を看取る)、松田氏(祖父、祖母を看取る)
- ・ケアマネジャー ふくろう 弓狩氏
- ・訪問介護 わかばケアセンター 尾崎氏
- ・訪問診療医 悠翔会 佐々木氏
- ・緩和ケア病棟医 王子生協病院 田氏

16:00 閉会 (個別相談会 16:30 まで)

【パネルディスカッションの内容】

在宅医療で抑えておいた方がよい情報を QandA 形式で伝えた。いくつかの Q を紹介する。

Q: どのくらいの方が望み、ということはどのくらいの方が家で亡くなっているのか?

Q: 緩和ケアとな何ですか? 病院の緩和ケアと在宅の緩和ケアは違いがありますか?

Q: 治療をやめるということは敗北なのでしょう吗? どのような意味がありますか?

Q: 家族を家で看取った家族にとって、在宅死の意味は何でしょう吗?

Q: 最期を病院で迎えた方が納得する人もいます。どのような場合でしょう吗?

Q: 家で看取る場合、家族負担がきついのはどのくらいの期間ですか?

.....

【総括】

・パネルディスカッションの Q を遺族、医療者、介護関係者がそれぞれの立場でコメントする形式としたことで、多面的な考え方が伝わったように思う。例えば、家で亡くなることは本人の希望であり、それを達成できるという一方で、あまりにも身近に身内の死に向き合ったことでグリーフが深いのかもしれない、という意見があった。

・「来年も実施しないのですか?」「折に触れてこのテーマを学びたい」といった声が聴かれたことから、一回だけでは考えを整理・消化しきれないテーマであることと感じた。

・広報の難しさを実感した。今回はホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブック、関係者への案内郵送、あだち区報への広告掲載などを実施したが、思ったほど市民の参加がなかったように思う。過去における広報の成功事例を紹介して欲しいと思う。

【パネリスト】

福井恵治

遺族

2011年妻のが大腸がん発症。都内の病院にて化学療法を受けていましたが、治療の効果が期待できなくなったことから2012年4月より、夫である福井さんの介護の元、在宅療養を開始。訪問診療・訪問看護・訪問介護・居宅との関わりが始まりました。

緩和ケアの導入、24時間の持続点滴を行いながら、在宅療養2ヶ月が過ぎる頃に起こった脳梗塞と思われる症状から、半身麻痺・会話が出来ない状態となり、寝たきりとなった奥様の介護を続けられました。在宅療養が始まって3ヶ月目にご自宅でのお看取りを経験されています。

松田絵里花

遺族

老人保健施設での介護福祉士経験4年。

祖母は大腸がんの肺転移。病院で手術、抗がん剤治療を受けましたが、治療困難となり、在宅酸素を導入しての在宅療養となりました。訪問診療、訪問看護、居宅のサービスを利用しながら2014年3月～4月の2週間の介護を経験し、ご自宅でのお看取りをされました。

祖母の在宅療養中、祖父も同時にながんで入院、手術。祖母の葬儀を済ませた直後に24時間の持続点滴を行いながら、訪問診療、訪問看護、居宅のサービスを利用しながら祖父の在宅療養を開始。4月～5月の約3週間の介護を経験し、自宅でのお看取りを経験されました。

尾崎明美

福島県出身 保育士・介護福祉士

2009年 株式会社わかばケアセンター 入社

サービス提供者として勤務

保育士としての経験をも持ち介護に携わり15年、在宅介護10年以上の経験者。

利用者様の満足をモットーにサービス提供責任者の育成やヘルパー研修の中心者となり在宅ケアの質の向上に努めている。

弓狩幸生

社会福祉士・精神保健福祉士・主任介護支援専門員

自宅での祖母の看取り経験から、在宅診療クリニックのソーシャルワーカー、老健施設の相談員を経て、現在は在宅総合支援センターふくろう所長兼介護支援専門員。

岩本ゆり

看護師・助産師

東京医科大学産科、東京大学病院婦人科、緩和ケア病棟を経て2003年に患者が納得して意思決定するための医療相談サービスを起業し、現在までに1000件を超える自費の相談を受ける。2010年から楽患ナース訪問看護ステーション所長、2015年から楽患チャイルド(重症児のためのデイケア)所長

佐々木淳

医師

総合内科・消化器内科

医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長

1998年 筑波大学卒業

主な経歴

■三井記念病院 内科/消化器内科

■東大附属病院 消化器内科

田直子

医師

2005年3月 東海大学医学部卒業

4月 王子生協病院 初期研修

2007年4月 同院 後期研修

2011年 家庭医療専門医取得

2014年5月 同院緩和ケア病棟 医長

普段は同院在宅医療部にて訪問診療も継続して行っている。

【司会】

岩本貴

上智大学大学院理工学研究科卒 理工学修士

アクセンチュア株式会社を経て2002年にNPO法人楽患ねっと、2007年に楽患ナースを起業し、現在充足していない医療ニーズに応える事業を展開している。患者の意思決定支援、在宅看取りに対応した訪問看護ステーション、重症心身障害児向けのデイケアを運営。『患者中心の意思決定支援』編集/共著 中央法規出版

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による



住み慣れた家で 最期まで過ごす

ための市民の集い

終末期を迎えたとき、
 どこで過ごす、過させるのか？
 医療・介護はどこまで
 サポートしてくれるのか？
 家族の負担は？
 やつぱり病院が安心？など
 知っていれば、自分らしく
 納得のいく選択ができるはず。
 こんなはずじゃなかった、
 なんてことにならないために、
 在宅看取りを実現した
 ご家族・医療・介護関係者の
 話を聴く市民の集いです。

- 13:30 会場
 13:50 開演 基調講演 町亞聖氏(アナウンサー)
 14:35 パネルディスカッション
 ・看取り経験家族
 ・ケアマネジャー ふくろう 弓狩氏
 ・訪問介護 わかばケアセンター尾崎明美氏
 ・訪問看護 楽患ナース 岩本ゆり氏
 ・訪問診療医 悠翔会 佐々木淳氏
 ・緩和ケア病棟医 王子生協病院 田直子氏
 16:00 閉会
 個別相談(16:30まで)

基調講演



町亞聖氏(アナウンサー)
町さんはご両親を10年介護されていた経験があります

開催日
2015年
8月15日
土

【開催場所】
西新井文化ホール
費用無料
※事前申込不要

主催/NPO法人楽患ねっと
共催/医療法人社団福寿会 医療法人社団悠翔会 わかばケアセンター 楽患ナース訪問看護ステーション
助成/公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
お問い合わせ先 Tel. 03-6806-3920